

親子ちゃれんじ④ 親子でめざせ！キッチン戦隊&ひらめき工房

- 趣 旨：親子で様々な体験活動にチャレンジする機会を提供し、親子の絆を深めるとともに保護者間のコミュニティの構築を図る。
- 日 時：日帰りで2日間開催
令和3年3月6日（土） 9:30～16:00
3月7日（日） 9:30～16:00
- 場 所：国立淡路青少年交流の家
- 対 象：子どもとその保護者 1日15組、50名程度
- 参加者：3月6日 15組46名（保護者19名、子ども27名）
3月7日 15組52名（保護者22名、子ども30名）
2日間 計30組98名（保護者41名、子ども57名）

6 プログラムの内容

9:30～ 【ちゃれんじ① 親子でめざせ！キッチン戦隊】

午前、ピザ生地を粉から作るピザ作りを行った。アイスブレイクで行った「キャッチ」では、家族同士で手を握り合って楽しい雰囲気作りとピザ作りへのウォーミングアップができた。

【オリジナルピザ作り】

ピザ作りでは粉から生地を作るのが初めての参加者がほとんどで、生地の捏ね加減や小麦粉と水の微妙な調整に苦労していた。生地の色や硬さについてスタッフがアドバイスをし、それぞれ満足のいく生地作りができていた。トッピングの具材については、交流の家で用意したものを各自で選んで調理する形式で行った。自分の好みや感覚で具材を選び、配置や量を考えてトッピングを行っていたので、家庭ごとにオリジナルのピザができていた。

【初登場“かまど構い隊”の活躍】

ピザを焼く際にかまどのお世話をさせていただく“かまど構い隊”を募集し、メタルマッチで火起こしを行った。メタルマッチを使うのが初めての参加者も無事着火することができ、満足な表情を浮かべていた。焼き加減も、ピザの様子を見ながら調節できるため大きな失敗もなく、あっちこっちで「おいしい。」という声と笑顔が広がった。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からピザを作る・食べる場面は家族ごとの机に分かれていたが、焼く際は3家族に1基のかまどで行った。次に焼くピザをどれにするか決めたり、焼き上がりのタイミングで声を掛け合ったりするなど、他の家族とのコミュニケーションが生まれ



ていた。また、食後にマシュマロを炙って食べたが、子どもだけでなく大人も普段あまり口にしない食感を楽しんでいた。

13:00～ 【チャレンジ② 親子でめざせ！ひらめき工房】

午後は砂絵作りを行った。絵の題材は自由で、描く絵を事前に用意している参加者もいた。

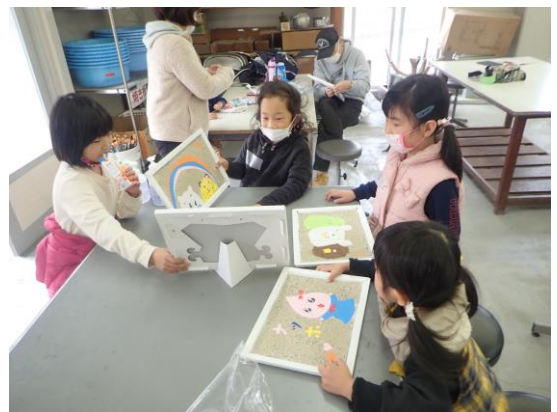
【砂絵作りに全集中】

シールを剥がす紙に下絵を描き、同じ色の部分をアートナイフで切り取り、めくった部分に色砂を撒いて色を付ける作業を繰り返した。砂絵を作るのが初めての参加者が多く、黙々と作品作りに打ち込んでいた。作業に熱中すると時間の経過に気づかない場合があるので、作業ごとに終了目安時刻を随時知らせ、ほとんどの参加者は時間内に作業を終えることができた。

親子それぞれの作品を作る家族もあれば、子どもが描いた絵を親が切り取って子どもが色付けするというように親子分業で作品を作る家族もあった。細かい砂のサラサラした感触を楽しむ子の姿や、親が必死になってアートナイフと格闘している姿が見られた。

【力作を鑑賞し合った作品交流会】

出来上がった作品をお互いに見せ合う作品交流会の時間では、くっきりと配色したものもあれば、色を混ぜ切らずにマーブル模様やグラデーションなどぼんやりした色の表現もあり、「すごくきれい。」「これどうやったの?」といった感想や質問の声が飛び交い、他の家族との交流を持つことができた。



7 参加者の声

- 生地からピザを作るのは初めてだったから、すべて自分で作れて美味しかった。
- 火おこしは初めてしたので楽しかった。今後キャンプでやってみようと思った。
- 砂絵が楽しかった。子どもが「明日も来たい。」と言っている。

8 所感

- ピザを生地から作るということは普段やったことが無く、親子で手作りの良さを体験する機会や作業の中でコミュニケーションが生まれる場面を設けることができた。
- 砂絵作りで砂絵の楽しさを体感したり、作品交流会で家族同士が交流したりする機会を作ることができた。
- 同内容のプログラムを2回実施することで、1日目の反省点を改善し、2日目に活かすことができた。特に1日目と2日目を比べてボランティアが危険に気づいて先回りしたり、積極的に参加者に声をかけたりするようになり、今回の事業を通して成長が顕著に見られた。